

# 令和5年度 学校教育部会 成果報告

## 1 テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、自らの成長が実感できる授業の展開【質的授業改善】

## 2 令和5年度重点内容

### (1) 合同研修会の充実

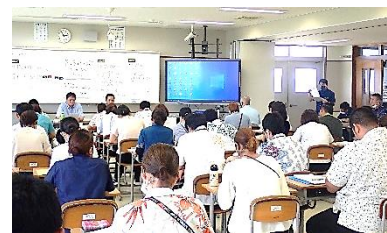
- ① 授業改善の方向性を示す3つのポイントを意識した授業改善の推進
- ② 学びの質を高める「5つの方策」の推進
- ③ 伊江島スタンダード型授業の推進
- ④ 学びが実感できる指導の取組を行う。(単元を通して身についた力を実感させる)
- ⑤ 学級経営の充実、児童会・生徒会活動の充実を図り、幼児児童生徒の自己肯定感を高める。



SD研(西小)



道徳研(伊江小)



教科研(伊江中)

### (2) 教師の学びを児童生徒に還元する取組み(校内研修の充実)

- ① 児童生徒の実態を把握し、校内研修の充実し、教師の指導力の向上と児童生徒の学力の向上に取り組む。



伊江中校内研



西小校内研



伊江小校内研

## 3 令和5年度学力調査の結果

### 令和5年4月～6月実施(全国学調・学びのたしかめ)

小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生		中学校1年生			中学校2年生			中学校3年生		
学びのたしかめ6月		学びのたしかめ6月		全国学調4月		学びのたしかめ6月			学びのたしかめ6月			全国学調4月		
4年	国語 算数	5年	国語 算数	6年	国語 算数	1年	国語 数学 数学	2年	国語 数学 英語	3年	国語 数学 英語			
県	44.6 41.2	県	56.6 61.6	県	65.0 58.0	県	38.3 58.6 58.6	県	44.1 47.9 44.3	県	65.0 42.0 36.0			
地区	39.5 37.0	地区	52.9 59.4	全国	67.2 62.5	地区	34.1 50.4 50.4	地区	41.0 41.8 41.8	地区	69.8 51.0 45.6			
村	39.5 31.7	村	51.9 48.8	村	59.0 53.0	村	30.2 48.7 48.7	村	35.6 31.0 38.5	村	55.0 42.0 33.0			
県との差	-5.1 -9.5	県との差	-4.7 -12.8	県との差	-6.0 -5.0	県との差	-8.1 -9.9 -9.9	県との差	-8.5 -16.9 -5.8	県との差	-10.0 0.0 -3.0			

### 令和6年2月実施(県到達度調査)

小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生		中学校1年生			中学校2年生			中学校3年生		
調査なし		県到達度調査2月		県到達度調査2月		県到達度調査2月			県到達度調査2月			調査なし		
		5年	国語 算数	6年	国語 算数	1年	国語 数学 英語	2年	国語 数学 英語					
		県	64.3 58.8	県	66.0 48.1	県	50.5 36.4 37.9	県	49.7 43.2 48.7					
		地区	62.0 57.0	全国	62.4 45.0	地区	47.1 30.0 36.9	地区	47.0 38.1 47.7					
		村	59.3 57.4	村	59.0 44.7	村	43.1 28.2 42.7	村	43.4 25.8 40.9					
		県との差	-5.0 -1.4	県との差	-7.0 -3.4	県との差	-7.4 -8.2 4.8	県との差	-6.3 -17.4 -7.8					

### 【学力調査考察】

2月の県到達度調査では、中学1年生英語において県の平均を上回る成果となった。また大きく差を詰めたのは小学校5年算数(11.4P)で、6年(算)、中1(国・数)、中2(国)も今年度の前半と比べて県平均との差を縮めた。各学校において授業改善や手厚い指導の成果が見られた。

## 4 成果と課題 (○成果、▼課題・改善策)

### 【 取組み1 (合同研修会) 】

- 保幼小中合同研修会(全6回)を通して、授業改善が進んでいる。
- 今年度は公開保育が実施(伊江幼)され、保育所・幼稚園における園内研修を充実させることができた。
- 夏休みに行われた保育所参観では、幼稚園教諭、保育士の子どもの様子(状況)を見取る視点を学ぶ事ができ、授業改善に活かされた。
- ▼ワークショップ型研修会等の実施で、教師が主体的に学べる研修会にする。

### 【 取組み2 (校内研修の充実) 】

- 児童生徒の実態に応じた校内研修の充実が図られ授業改善に繋がった。
  - 【伊江中】ICTを活用した互見授業の充実。道徳のローテーション授業。校長のリーダーシップによる数学科における授業改善。
  - 【伊江小】国語科における授業改善。道徳の授業実践。教師が主体となった学力向上のための取組み(補習指導の充実)
  - 【西 小】外国語科の授業改善を通じた児童の主体性を育む授業づくり。英語に興味を持つ児童が増えたことが成果である。1年間の研修の成果を国頭地区の教師に向けて発表した。
- 全国学力学習状況調査・県到達度調査の結果を考察し、各学校が授業改善に努め、児童生徒の課題に即した対応がなされている。(上記の考察参照)
- ▼教師の学び(校内研修の充実)を児童生徒へ還元するため、継続した取組みとする。
- ▼各学校の素晴らしい取組みの他校への波及が課題である。そのため、学校の枠を越えて互見授業を行い波及をねらう。

学力向上を推進する観点から、数字にて根拠を示すことになるが、数字をあげるためだけの取組にせず、児童生徒一人一人にその学年の学習を確実に身につけさせることが目標である。教職員の研修会はそのためであり、教師の授業力向上が子供達によりよい効果をもたらす。

今年度は、児童生徒の実態に応じた取組みにするため、合同研修会と各学校における校内研修の充実に焦点をあてて取り組んだ。

学校教育部会においては、引き続き、児童生徒が学習に主体的に取り組めるよう、授業改善を推し進めていく。